

必要な場所へ、 確実に

自然界にある水のうち、人が生活に使える水はごくわずか・・・日本では、生活に利用する水を河川に流れる水に頼っています。しかしながら、日本の雨の降り方は季節的に様々で、洪水や渇水が起こりやすい特徴があります。また、大量の水を、必要とする地域まで常時運び続けるには膨大なエネルギーが必要となります。必要な時に必要な地域に水を届けるため、効率的に水をため、水を送る施設とその的確な操作が必要なのです。

愛知用水

岐阜県八百津町から知多半島南端の愛知県南知多町に至る約112kmに及ぶ幹線水路が「命の水」を運びます。

利根川河口堰

川の流量が少なくなると、海水（塩水）が川を逆流し、周辺の農作物や飲み水に塩害を引き起こします。塩水の遡上を防止しつつ、堰上流部の汽水域に生息する生物に配慮した塩分濃度管理を行うため、ゲート操作を行い、水を利用できるようにしています。

洪水から地域を守る

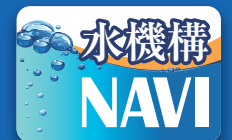
台風やゲリラ豪雨と呼ばれる局地的大雨は、時に私たちの生活に甚大な被害を及ぼします。水系の上流に位置するダムは、大雨により川の流量が大幅に増え、浸水等の大きな被害が発生するおそれがある場合に洪水の一部を貯め込み、安全な水量を下流に流すことで洪水を調節する役割を担っています。大雨が降れば、職員は昼夜を問わず、雨量等の気象情報や上下流の河川流況の把握、関係機関との情報連絡を行い、下流の洪水被害軽減のためにダムの治水能力を最大限活用するなど、的確な施設操作で、洪水被害の軽減、防止に努めます。

琵琶湖開発事業

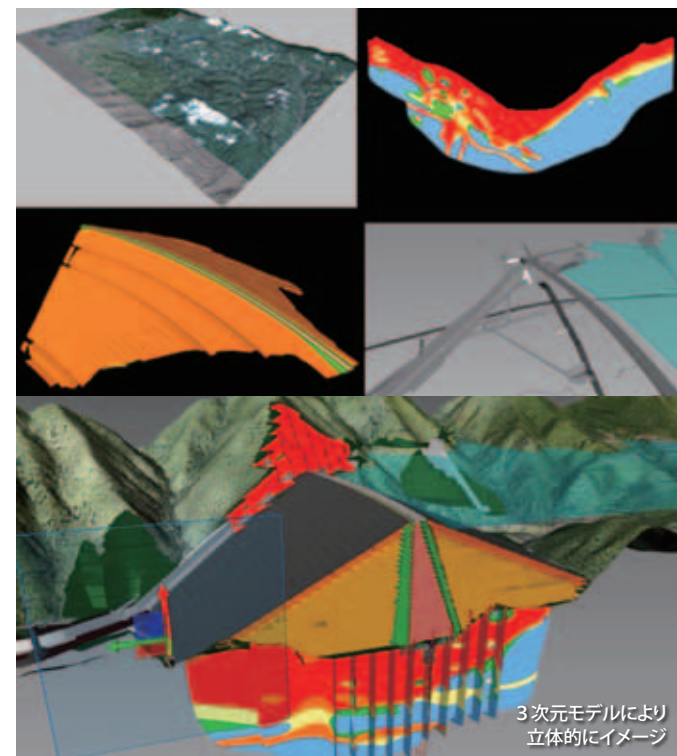
湖岸堤・管理用道路及び内水排除施設（水門、排水機場）により、瀬田川洗堰の操作と併せて、琵琶湖周辺の洪水を防御するとともに、下流淀川の洪水流量の低減を図ります。また、大阪府内及び兵庫県内に水を供給しています。

早明浦ダム

歴史上氾濫を繰り返した暴れ川「吉野川」の洪水調節を担います。また、「四国のいのち」とも表され、四国4県に水を送っています。



「安全で良質な水を安定して安くお届けする」それが水資源機構の使命です。



3次元モデルにより立体的にイメージ

小石原川ダムのi-Construction & Management

水資源機構として初めてとなる本格的な情報化（ICT）施工に取り組み、地形、地質、ダム・付属設備などの各種データを3次元CADモデルとリンクするシステムを構築しています。建設段階からあらかじめ管理段階における施設等の維持管理の省力化、効率化、施設運用・状態監視の高度化が実現することを目指しています。

建設から 管理まで

水資源機構は、日本一の貯水量を誇る徳山ダムや、首都東京の生活を支える武蔵水路など、大規模かつ重要な施設の建設から管理までを総合的かつ一元的に実施しています。

小石原川ダム

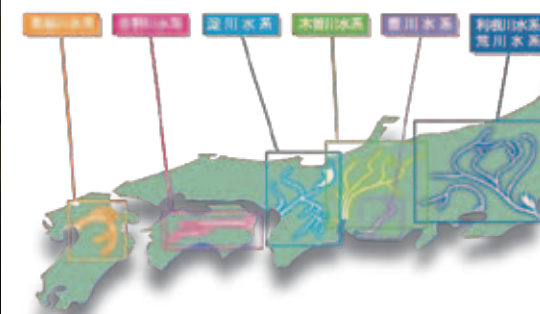
筑後川水系に新たに建設中の堤高139mを誇る九州最大級のロックフィルダム。ダム本体工事の最盛期を迎えており、岩盤を露出するための基礎掘削が完了し、これから堤体の盛り立てを開始します。（平成29年8月現在）

気候変動による渇水・洪水の頻発や被害の深刻化、大規模地震等による災害の発生、高度成長期以降に集中的に整備された施設の老朽化による機能低下など、水インフラに関わる様々なリスクに対応するための改築事業も近年、ますます重要になってきています。

房総導水路施設緊急改築

完成から40年近く経過する房総導水路。トンネルの天端に空洞ができると側壁にひび割れが生じやすくなるため、空洞に充填材を注入しトンネルを保全します。利水に影響を及ぼさない断水期間は3週間。短期間で施工できる工法で施工しています。

関東、近畿、中部の三大都市圏や四国及び北部九州は、産業の発展や人口の集中に伴い用水をたくさん必要とする地域です。これらの地域に水を安定的に供給するため、国土交通省が指定した7水系（利根川、荒川、豊川、木曽川、淀川、吉野川、筑後川）で閣議決定された水資源開発基本計画（通称：フルプラン）に基づき、水資源の開発・管理を行っています。水資源機構は、複数の都府県にまたがるこれらの地域で、関係省庁、関係都府県、利水者等多くの関係者と調整を図りながら、水道用水、農業用水、工業用水を水源から用水路まで一元的に管理する、我が国唯一の水に関する独立行政法人です。



水を都市圏へ